

講演者.....



東出忠桐 氏

農研機構 野菜花き研究部門 所長。平成4年農林水産省入省。野菜茶業試験場、近畿中国四国農業研究センター、ワーゲニンゲンUR客員研究員(2007～2008)、野菜花き研究部門 領域長、研究推進部長を経て令和6年より現職。国際園芸学会2026副委員長。(一社)園芸学会理事。スマートグリーンハウス検討専門委員長。ASHS Outstanding Vegetable Publication Award (2010)、NARO Research Prize (2019)、園芸学会賞(2021)を受賞。トマト100トンどりの新技術と理論(農文協)。他分担執筆多数。



佐々木克友 氏

農研機構 野菜花き研究部門 施設生産システム研究領域 上級研究員(博士(農学)) 2009年に農研機構花き研究所に入所。2023年より農林水産省農林水産技術会議事務局 兼農産局にて研究専門官として従事。2025年より現職。専門は園芸科学。2009年まで植物の病傷害応答(植物生理学)を対象に研究。2009年から遺伝子組換えやゲノム編集等による新しい花の創出技術を研究。現在は日本発の環境制御技術の海外展開事業に従事。

パネリスト.....



中野明正 氏

千葉大学大学院園芸学研究院教授。農学博士、技術士(農業)、野菜ソムリエ上級プロ。1995年農林水産省入省。農研機構では野菜の生産技術および品質制御に関する研究に従事。2017年より同省農林水産技術会議事務局で、研究調整官として農林水産業全般の技術開発を推進。2023年より現職。実学としての園芸を追求し、園芸イノベーションを推進。そのフィールドは宇宙にも及ぶ。



田口昌義 氏

2005年に温室メーカーである渡辺パイプ株式会社に入社。2015年より営業部門 マネージャーとして、研究機関や公共施設における温室や、海外での温室案件 迄幅広い用途の温室設計・施工案件に携わる。2019年からは開発部門に移籍し、温室・各種部品・環境制御装置等のオリジナル製品の開発責任を担うと同時に、ベトナム国をメインとした海外展開に関わる共同研究に携わる。現地法人(2014年設立)である渡辺パイプベトナムを通じて、日本国における施設園芸技術の海外展開を推進している。



藤村博志 氏

一般社団法人日本施設園芸協会 常務理事兼事務局長。農林水産省でスマート農業用の機械・システム等国内外の農業機械化の推進をはじめ、同省及び農研機構において、農業研究開発に係る国内外のマネジメントに携わる。現在、現職に就き、施設園芸分野の発展をサポート。本シンポジウムでは、施設園芸の国際化への取組が、国内の施設園芸の発展に極めて重要なことについて、議論を深めていただきたい。

[13:00~14:15] 第二部:技術展開のためのデータ規格等の標準化

講演者.....



菅野圭一 氏

農業・食品産業技術総合研究機構 本部 企画戦略本部 セグメントⅢ理事室（併任：野菜花き研究部門 施設生産システム研究領域）上級研究員。博士（農学）。トマトをはじめとする施設園芸作物の安定生産とスマート農業の実現に向け、環境データや生育データを活用した栽培支援技術の開発と社会実装を推進。温室環境制御機器やICTアプリケーションとのデータ連携基盤の構築のため、産学官による「施設園芸データ連携コンソーシアム」の運営を通じ、技術普及・標準化に注力。



岡本秀樹 氏

農研機構 知的財産部知財・標準化管理役。シニア教育士（工学）。規格開発エキスパート。1983年アズビル株式会社入社。FA用センサ、画像処理センサの開発に従事。2016年からIECスマートシティシステム委員会エキスパート（IEC：国際電気標準会議）。2つのIEC規格開発に従事。2022年、IECからIEC 1906賞を受賞。2025/4農研機構入構。国際標準化活動のマネジメント、新規標準化テーマ調査および標準化教育を担当。

パネリスト.....



光廣政男 氏

農林水産省 大臣官房政策課 技術政策室 課長補佐。平成19(2007)年農林水産省入省(現在入省19年目)。これまでに、農地制度、病虫害防除、協同農業普及事業、在外勤務(在ブラジル日本国大使館)、果樹の生産振興、食料安全保障等を担当。
令和7年4月に大臣官房 政策課 技術政策室に異動。データを活用した農業の推進、農業における宇宙・衛星、AI等の活用の促進等を担当。



安場健一郎 氏

岡山大学 農学部附属山陽圏フィールド科学センター 教授
1996年に農林水産省 野菜・茶業試験場（現、農研機構）に入省。2013年より岡山大学。スマート農業技術の開発に取り組んでおり、近年では、AIなどの技術を用いて、野菜栽培における環境制御や選果システムの効率化に取り組んでいます。また、UECS（ユビキタス環境制御システム）の普及に貢献し、データに基づいた施設園芸のスマート化を推進している



北川寛人 氏

PLANT DATAの代表取締役CEO。東京大学農学部で学士は農機自動制御、修士は気候変動対応に従事。PwCで、ICTシステム導入。オールアバウトで、Webメディア構築。ライブドアで、Webサービス構築。2006年に独立し、JICA予算によるカンボジアでの農業可能性調査など農業やICT分野の事業構築に従事。2015年、PLANT DATAに参画し、グローバルでの食糧生産のプラットフォームビジネスを志向。

【14:30~15:45】 第三部:東南アジアにおける技術展開の事例と将来

講演者.....



箕輪佑耶 氏

衆議院議員国会事務所で勤務したのち2013年ニイヌマ株式会社に入社
国内営業を経て2020年にニイヌマトモファーム（ベトナム）を設立し代表に就任。高糖度フルーツトマト栽培を中心とした農業事業を行っており、施設園芸によるスマート農業技術との掛け合わせでの生産性向上や収穫量増加による農業事業の収益拡大、高付加価値な野菜生産を目指し、日本・ベトナム双方の企業・行政と連携し、データ活用した日本の農業技術・ノウハウの海外展開を推進



磯崎真英 氏

農研機構 野菜花き研究部門 施設生産システム研究領域 領域長。養液栽培、環境制御、植物工場などの分野で研究を行い、スマート農業や施設園芸に関する研究開発を牽引する。1994年三重県農業研究所に入庁、2011年植物工場三重拠点の設計・実証に参加。2019年より農研機構に勤務。これまでに次世代施設園芸導入加速化支援事業企画委員、日本養液栽培研究会役員、IHC2026シンポジウム学術委員などを担当する。

パネリスト.....



岡島博司 氏

1991年にトヨタ自動車入社後、エンジン・トランスミッション用金属材料やHVモータ用磁性材料開発に従事。2004年からは技術統括部で先端研究の戦略・マネジメントを担当。環境・エネルギー材料、磁石、蓄電池などを専門とし、国家プロジェクトにも関与。近年は、CO2削減を目指す取り組みとして、工場内のビニールハウスでイチゴやトマトを栽培する農業の実証実験を推進し、カーボンニュートラルに貢献している。



小林弘高 氏

株式会社NTTアグリテクノロジー。取締役 マーケティング統括本部長。民間企業および地方自治体向けのネットワークおよびシステム提案、地方創生に20年以上携わってきた経験を活かし、デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進やICTソリューションの効果的な活用に積極的に取り組む。現在の職務では、特にICTやDXを用いた農業のスマート化、専門家不足の解消、ノウハウ蓄積など、陸上養殖も含む一次産業における課題解決に従事し、新たな産業の創出に携わっている。



岡准慈 氏

OATアグリオ株式会社 海外営業本部営業部 副部長、技術士（農業）
大阪府立大学農学研究科博士前期課程を修了後、大塚化学に入社。徳島県鳴門市にある栽培研究センターにて研究開発業務を行った。2010年にアグリテクノ事業部がMBOにより現会社を設立。2015年から中国浙江省にある、潤禾（舟山）植物科技に駐在し、中国国内での施肥灌水技術の普及推進を行う。2023年8月に帰任、現職。